SMBC CUP
JAPAN KID'S
TAG RUGBY
FRIENDSHIP

SMBCカップ 第 21 回全国小学生タグラグビー大会

北海道大会
実施概要書

令和 6 年
一般財団法人　北海道ラグビーフットボール協会
普及育成委員会

目次

大会概要　（全国大会）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3

北海道大会実施要項・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.4
P.5

大会規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.6
P.8

大会競技規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.9
P.10

大会実施要項補足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.11

大会規則・競技規則補足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.12
P.14

■北海道大会実施に関するお問合せ
大会事務局　池／原田／志賀
各支部委員を通じてご連絡ください。
Email:　tag01540@gmail.com

※一部、北海道大会ローカルルールも含まれているので、
保護者の方がこの全道大会実施概要書の内容について、直接
日本協会事務局へお問い合わせすることがないように各支部で
周知・対応願います。

大会概要（全国大会）

大会名称　SMBC　CUP Japan Kid's Tag Rugby Friendship
　　SMBCカップ　第 21 回全国小学生タグラグビー大会

目　　的　全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、
　　ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、
　　スポーツの意義を実感することを目的とする。

主　　催　(公財)日本ラグビーフットボール協会
主　　管　関東ラグビーフットボール協会
　　関西ラグビーフットボール協会
　　九州ラグビーフットボール協会
　　各都道府県ラグビーフットボール協会

後　　援　スポーツ庁、朝日新聞社

特別協賛　SMBCグループ

協　　賛　株式会社 WRS JAPAN、株式会社シミズオクト

競技規則　(公財)日本ラグビーフットボール協会、タグラグビー標準競技規則をもとにした大会規則とする。

出場資格　小学生４～６年生（日本の学期制による）原則1チーム・7～10 人とする。
　　ただし、1 チーム 6 人以下の場合は主催者に相談すること

大会方式
・全国大会
　期　　間　2025 年 2 月 23 日（日）・24 日（月）
　会　　場　埼玉県熊谷ラグビー場

（参考）

・公益財団法人日本ラグビーフットボール協会公式ウェブサイト内タグラグビーサイト
　https:// tag.rugby-japan.jp/

北海道大会実施要項

大会名称　SMBCカップ　第 21 回全国小学生タグラグビー大会北海道大会　兼　第 21 回北海道小学生タグラグビー大会

目　　的　全道各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、
ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、
スポーツの意義を実感することを目的とする。

主　　催　（一財）北海道ラグビーフットボール協会

主　　管　（一財）北海道ラグビーフットボール協会普及育成委員会

協　　力　（公財）日本ラグビーフットボール協会

後　　援　スポーツ庁、朝日新聞社、当別町、当別町教育委員会（予定）

特別協賛　SMBCグループ

協　　賛　株式会社 WRS JAPAN、株式会社シミズオクト

期　　間　令和7年1月13日（月・祝）

会　　場　当別町総合体育館　〒061-0233　石狩郡当別町白樺町 2792　TEL（0133）22-3833

競技規則　（公財）日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。

競技方法　支部予選を経て推薦された12チームが出場し、次の方式で行う。
①出場チームを抽選で3チームずつの4プールに分け、総当たり戦で1位～3位を決定。
②各プール1位と2位のチームは決勝トーナメント戦へ進出。
③各プール3位のチームは順位戦へ進出。

参加資格　（1）小学生 4～6 年生(日本の学期制による)で編成したチームで、1チーム 7～10 人とする。学年の編成内容は問わない。
（2）原則、単一小学校の参加とする。ただし、タグラグビー普及の地域差等により単一小学校でチームが組めない場合は、複数校の混成チームでの参加を認める。（少年団やジュニアチームはできるだけ多くの小学生が参加できるように調整すること。
（3）参加チームは成人 2 名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項及び大会規則等の遵守を誓約すること。
（4）帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負うことのできる者であること。
ただし、支部予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任することは構わない。
（5）帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。
ただし、小学校長の承認がなくても帯同コーチの責任において参加することも可能とする。
（6）参加登録費（保険料は含まない）を納めること。
（7）上記の他、新型コロナ感染防止対策が必要になった場合には、別途通知する内容に対応できること。

罰　　則　大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。

安全対策　（1）大会期間中は主催者が所定の救急指定病院を定める。
（2）大会期間中は、主催者が担当医師及びメディカルスタッフを任命する。
ウォーターボーイは各チームの帯同コーチが兼任すること。
（3）試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主催者が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。
（4）大会期間中の保険は主催者でまとめて加入する。ただし、支部予選は各支部で加入するものとする。

健康管理　（1）大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。
（2）試合中以外での病気傷害についてはチーム内で処理すること。
（3）参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。

肖 像 権　大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。

※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム等に使用される場合がある。
※北海道内のタグラグビー普及事業に係るポスター・プログラム等に使用される場合がある。

費　　用　（1）旅費交通費の支給はしない。
（2）参加費　￥3，000（保険料は含まないが、全道大会以上の大会は JRFU でまとめて保険加入済。）

表　　彰　（1）優勝チーム、準優勝チーム、3位チームを表彰する。
（2）その他、各支部予選大会では、各支部責任者の判断にてチーム又は個人を表彰することができる。

そ の 他　（1）北海道大会の公式戦で使用するタグセット、タグボールは大会事務局が用意する。
※各支部予選のタグセット、タグボールは各支部で用意する。
（2）北海道大会は全国大会公式試合球と同品質のもの（BLK 提供）を使用する。
（3）各チーム帯同コーチ 1 名は、他のチーム同士の試合の**タッチジャッジ**が務められること。
（4）チーム名は必ず小学校名か地域名を入れることとし、最大文字数は20文字までとする。
※各支部で確認すること。
上記に反する場合、全道大会においてはチームに断ることなく事務局でチーム名を改変することがある。

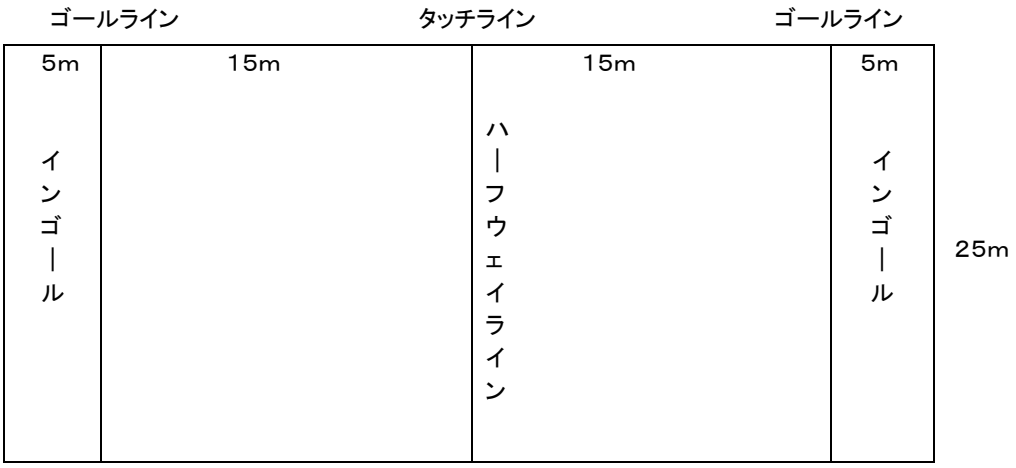
第 21 回大会　北海道大会　大会規則

1　グラウンド（コート）

グラウンドサイズは概ね横 25m ×縦 30m（ゴールラインからゴールライン）、インゴール（ゴールラインからデッドボールライン）は各 5mずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

★標準的な専用試合コート



2　用具

（1）　大会期間中に使用するタグボール、ビブスは主催者で用意したものを使用する。

（2）　ボールは 4 号球を使用し、空気圧は 0.5 ～ 0.6kg/c ㎡とする。

（3）　タグは日本協会規定サイズ（50 mm× 375 mm）とする。

3　チーム

（1）　競技グラウンド内にいる5名のプレーヤーと入替可能な2名以上5名以下のプレーヤーから成り、原則として予選大会エントリー時の登録のまま決勝大会に出場すること。ただし、プレーヤーの引越し等が生じてチームの人数が4名～6名になった場合はこの限りではない。その際は、帯同コーチは試合出場ができないプレーヤーについての申立書、転校を証明する書類等を大会本部に提出し、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。

1　コーチは全道大会及び各支部予選大会の各試合において、後半開始時までに登録選手を必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。

2　負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが5名以下になった場合、原則、公式試合は行えない。ただし、北海道大会ローカルルールとして試合は認めるが、その場合は不戦敗となる。リーグ戦においては相手チームを不戦勝として勝ち点 3 と得点 5 点を与える。不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0 点とする。

（2）　試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。

（3）　帯同コーチは成人2名とする（そのうち1名は、他のチーム同士の試合の**タッチジャッジ**が務められること）。コーチは試合中に次のことができる。

①　負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。

②　グランドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの最小限の教育的かつ建設的助言を行うこと。ただし、プレーヤーの自主性を尊重すること。プレーヤーの「タグ」のコールが聞こえるように大きな声での助言は慎むこと。

③　グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。

④　ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水をすること。（コートチェンジ後。選手はベンチに戻らない）

⑤　グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。

（4）　帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。（ベンチ及び応援者からのレフリーコールは厳に慎むこと。）

（5）　レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員はチーム、帯同コーチ、タッチジャッジ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたると判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4 プレーヤーの服装

（1）プレーヤーの服装については以下のとおりとする。（体育館内での開催の場合に限る）

運動に適した服装（学校体操着など）とし、運動靴またはトレーニングシューズとする（靴底が黒いものは不可）。

また、スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に事務局に問い合わせること。

※全国大会への出場を目指すチームは、チームで統一された服装（ソックスやスパッツを含む）を求められるため、予めチーム内で協議し準備しておくこと。シューズについては、グラウンドが人工芝であるため、別紙資料1にあるスパイクの購入を推奨する。

（2）プレーヤーは以下のものを着用することができる。

① 髪留め（ゴム製）
② めがね（試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを用いることが望ましい）
③ ビブス（主催者が用意したものに限る）

（3）以下の物については着用・使用を認めない。

① 手袋（タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため）、すべり止めの類。
② ギブス等医療装具（着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから）
③ その他、タグラグビーをプレーする上で必要のない物

5 選手の入れ替え

（1）入替は以下の時に何度でも可。

① ポイント（トライ）後（支部予選において、前後半がない試合の場合は試合時間の半分を経過したとき）
② ハーフタイム開始時
③ 負傷でゲームが中断した時

（2） 入替は帯同コーチが交代を管理する**サブコントローラー**に申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない（時間は継続）。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備すること。**サブコントローラーを介さないで行われた入替は認められない。**この場合、ゲームを止めた地点で相手側のフリーパスから再開する。

（3） 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

6 試合時間

（1）標準的な試合時間は前半 5 分－ハーフタイム 1 分－後半 5 分とする。

（2） プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行った後にチームから給水を行える。ただし、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいなければならない。

レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたると判断した場合、相手側のプリーパスによる再開を行う。

7 レフリー

（1） マッチオフィシャルは 4 名又は 3 名（レフリー1 名、タッチジャッジ 1 名又は 2 名、サブコントローラー1 名）とする。

（2） レフリー及びサブコントローラーは主催者が指名する。タッチジャッジ 1 名又は 2 名については、全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。（代表者会議時に確認する。）

※開会式前に必ずレフリーブリーフィング行い、役割分担や判定に関することを事前に確認することとし、ブリーフィングに参加しなかったレフリーは起用しないこと（選手が困惑するため）。

※**各支部予選における大会審判長は、必ず各支部の普及育成委員又はタグ担当が担うこと。**

（3） レフリーはグラウンド内で判定を行う。タッチジャッジが 1 名の場合、レフリーは可能な限りタッチジャッジがいない側のグラウンドタッチライン際にて判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。タッチジャッジはこの限りではない。

スマイルレフリー（優しい言葉遣いや笑顔）を推奨する。

（4） タッチジャッジはタッチライン沿いで以下を行う。

① レフリーの判定の補佐。（特にトライ時にトライが先か、タグが先か聞かれる場合がある）
② タグのカウント
③ 選手の入れ替えの補佐。
④ 負傷者のための試合停止の要請。
⑤ 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。
⑥ ファールをアピールすることは要しない。（レフリーに聞かれた場合に限り事実を伝えること。）

（5） **サブコントローラー**はグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。
① 選手の入替の管理（全員出場の確認を含む）。
② 得点の確認。
③ チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告及びレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。

（6） レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。

（7） レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。
① プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。
② プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。
レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

8 試合時間の管理と試合の記録
（1） 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。

（2） 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。

（3） 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行うことができる。

9 試合終了（ノーサイド）
試合終了（ノーサイド）はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

10 試合の勝敗について
ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

11 北海道大会における予選リーグ戦、決勝トーナメント戦
詳細は以下のとおりとする。

（1） 予選リーグ戦
① 4ブロック、各3チームによる総当り戦方式とする。
② 試合の結果に応じて、チームに勝ち点を与える。勝ち点は、勝ち 3 点、引き分け 1 点、負け 0 点、棄権 0 点とする。
③ 不戦勝には勝ち点 3 と得点 5 点を与える。不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0 点とする。
④ 決勝トーナメントへの進出は、各ブロックの総勝ち点 1 位の4チームと総勝ち点 2 位の4チームの計8チームとする。
⑤ ブロック戦でポイントが同数のチームが複数出た場合は下記の順で順位を決める。
（ア） 直接対戦における勝者チーム。
（イ） ブロック戦における総得失点差の大きいチーム。
（ウ） 主催者の定める方法による抽選。（試合終了時にコートに立っていた選手 5 人がそれぞれトランプのカードを引き、合計数の大きい方のチームを勝者とする。※裏返したまま引き、同チーム内でシャッフルしてから開くこと。）
⑥ 各ブロックの総勝ち点 3 位のチームは順位戦に進出する。

（2） 決勝トーナメント戦
① 「SMBCカップ 第 21 回 全国小学生タグラグビー大会全国大会及び北海道大会推薦チームについての指針」に基づき、上位進出チームを決める。
② 優勝、準優勝、3位を決定する。
③ 決勝トーナメント戦で同点（同評価）の場合は下記のように勝者を決定する。
（ア）主催者の定める方法による抽選を行う。
（イ）決勝戦では両チーム優勝とする。延長戦等は行わない。

第 21 回大会　北海道大会　競技規則

1　チームサイド（ベンチ・グラウンド）/キックオフ/ビブスについて

（1）　チームサイド（ベンチ/コート）は、タイムスケジュールの左側チームが、観客席からコートを見て左側。
（2）　試合開始時のキックオフは、タイムスケジュールの左側チームから行います。
（3）　ビブスは、名簿に合わせて 1 番から順に着用してください。（選手の入れ替えを確認するため、順番を確実に守ること）
※選手番号とビブスの相違によって選手の入れ替えが確認できなかった場合は大会規則-3-（1）-①に準じ、不戦敗となります。ビブスの着用の管理責任は帯同コーチにあります。ビブスの着用が適当でないときは、ガムテープに名前や番号を書いて上着の両肩に貼るなど、サブコントローラーが選手の交代を容易に把握できるように努めてください。

2　プレーの方法

（1）　前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行います。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行います。前後半がない試合で概ね試合時間の半分を経過した際に選手を入れ替えたときは、開始時のフリーパスを行わなかったチームのフリーパスによって再開します。
（2）　試合中、二本のタグを左右の腰に一本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができます。※立っていないプレーヤー、膝をついているプレーヤーは反則の対象となります。

3　アドバンテージ

反則が起きても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合があります。

4　得点〔トライ〕とその後の再開

（1）　左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール（ゴールラインを含む）にボールを着けると1点が得られます（「トライ」といいます）。
（2）　レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られたと判断した場合、トライ（「ペナルティトライ」）を与えます。
（3）　トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行います。
（4）　次の場合、トライは認められません。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開します（タグの回数は継続します）。
　①　ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
　　※事前にインゴールのエリアを確認しておくこと。
　②　インゴール直前でタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。
　　［補足］　このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。
　③　スライディングや飛び込んでインゴールに入った。
　　危険なプレーとみなし、防御側の5mフリーパスで試合を再開します。

5　タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらか近い方のタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立です。
（1）　タグが起きたら、プレーヤーは次のことをしましょう。
　①　タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスします。
　②　タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返します。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けます。※タグを取られたプレーヤーがパスしてからタグを返しましょう。
（2）　防御側がタグを4回取ったら攻守交代です。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開します。ただし、インゴール又はゴールラインから 5m以内のエリアで4回目のタグを取られた場合、ゴールラインからコートの中央へ向かって 5mの場所からゲームを再開します。
（3）　タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取れます。

6　オフサイド（反則）

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離した地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインができます。
（1）　オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がります。
（2）　下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにします。

7　ノックオン・スローフォワード（反則）

（1）　プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックオン」といいます。
（2）　プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」といいます。

8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2m以内にいるプレーヤーにパスをすることです。ボールを受けるプレーヤーは走り込んではいけません。（初回注意、以降反則）

（1） フリーパスは前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われます。

（2） フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点からに5m下がります。ボールがパスされれば、前に出てもかまいません。

（3） インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われません。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、ゴールライン前5mの地点から行います（「5mフリーパス」といいます）。

9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となります。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行います。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れます。

10 インゴール、タッチインゴール

（1） ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開します。

（2） プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5mフリーパスで再開します。

11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはなりません。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられます。

（1） 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。（誤って服を引っ張ってしまった場合も該当します。）

（2） タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。

（3） 相手をかわす以外の方法（タグを取られないように手で押さえたり、タグを隠したり、ジャンプしたり、体を 90 度以上回転させたりすること）で、相手がタグを取るのを邪魔すること。※北海道大会ローカルルール

（4） その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

12 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開します。その時、タグの回数は継続します。

全国小学生タグラグビー大会

北海道大会実施要項補足

この「補足」は、全国小学生タグラグビー大会北海道大会に出場するチームの指導者、選手、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にタグラグビーを楽しめる環境を作るため、道内タグラグビー人口の拡大を願い、以下についてご理解及び周知いただきたくお願い申し上げます。

1　競技方法について〔日本ラグビーフットボール協会事務局確認済み〕

【経過】

北海道から全国大会へ出場できるチームは、例年2チームである。

第7回までは道内全支部で50チーム前後が毎年参加していたが、皆様の普及活動の成果もあって、第8回以降は60チーム以上、近年は80チーム前後で推移している。これらの北海道の出場チームが多いことから全国大会出場枠の「2枠」が毎年変わらず与えられているが、チーム数が低下した場合は道外の他の普及地域に割り振りされる可能性がある。

全国小学生大会は、学校単位でのタグラグビーの普及を後押しするための意味を持ち、学校でタグラグビーの授業を導入したのち、タグラグビーを継続していくためのきっかけとして最適な大会であることを再度理解していただきたい。

（1）　全道10支部のうち、予選参加チーム数の多い支部に上から順に全道大会出場枠「2枠」を与え、全部で12チームが全道大会に出場できるものとして取り扱っている。※例えば、1支部未開催となった場合は、3支部に「2枠」の権利が発生する。

（2）　北海道においては、全道大会の出場チームの条件に、「支部予選を経て推薦された（旧：勝ち抜いた）12チーム」とある。全道大会にふさわしいコンテストを展開するには、支部の代表権（推薦順位1位、2位）を有するチームが出場する必要がある。この出場権については、北海道普及育成委員会が各種大会の趣旨を踏まえて設定することであり、支部の裁量で決めることはできない。

全国大会の出場に関して、北海道大会で「同一支部内から2チーム出場することはできない」との内規があるのは、大会スポンサーが『より多くの地域から全国大会に来てほしい』という願いを反映しての内規である。全国小学生大会の北海道大会では、全国大会に出場する力量を備えたチームを送り出すものとして、各支部から推薦上位チームの出場を求めている。従って、上位大会への出場チームは北海道普及育成委員会が定める「全国小学生タグラグビー大会全国大会及び北海道大会推薦チームについての指針」に準じ、指針の対象となるのは純粋に勝ち上がったチームのうち、推薦によって選出されたチームとし、支部独自の運用は厳に慎むこと。

（3）　**（重要）**支部予選募集期間内に2チーム以上の参加申し込みが見込めない場合は、支部予選を開催することができないことから、全道大会への出場権がないことになるので留意すること。

2　参加資格について〔（2）関連〕

参加資格については、小学校の単一校のチーム編成を主としている。普及目的で例外的に混成チームも認めている。過去には「3校以内で構成されたチーム」という制限があったが、第9回大会で北海道から日本協会事務局に「地方開催地では、3校以内の制約があるとチーム編成が難しい」と要望をあげたところ、翌年度にその枠が撤廃された。これは、単一校でチームを構成できないスクール等に配慮されたものである。

北海道のタグラグビー普及については、ラグビースクールやスポーツ少年団の協力なしにこれまでの活動や成果は望めなかったといっても過言ではない。「単一校によるチーム編成」の趣旨を踏まえつつ、出場資格を有するすべての子どもたちに出場の機会を設けるように努めること。

なお、単一小学校主体のチーム編成ができるにも関わらず、**『少年団やスクール等の事情』で単一校編成が可能又は単一校を中心とした複数校編成が可能であるにもかかわらず、6年生単独の混成チームや選抜と誤解されるような混成チームで出場することは一切認められない。**

特例として、同一校の複数の選手がそれぞれ異なるチームに所属している場合は、チーム所属を優先してチームに属しても差し支えないこととする。この特例は基準日以降のチーム移籍を容認するものではない。基準日：9 月 1 日）

※支部委員又はタグ担当が判断に迷う場合は、事前に北海道大会事務局へすべてのエントリーシートを提出し助言を受けること。チームから直接大会本部事務局への問い合わせするようなことがないように配慮すること。（原則、回答しない。）

※「チーム編成例を作ってほしい」との要望があったが、それを示さなければならないチーム編成はないものと解釈しているので、単一校での組み合わせから漏れる場合は他のチームに含めても構わないことを理解し、**選手の学年や能力を一切考慮せずに、学校名で割り振れば通常は要件を満たす**ものである。ただし、普及目的で、同一校にいる複数の選手が、他の異なるチームにそれぞれ属することになる場合は、支部委員の裁量の範囲と解して構わない。

（編成例）

A校8名、B校4名、C校5名　→A校単独、B+C校9名（B・C校の振り分け不可）

A校8名、B校6名、C校5名　→A校+C校、B+C校（C校のみの振り分けが可能）

A校4名、B校4名、C校4名、D校4名　→A+B+C校8名やA+B+C+D校計8名×2チームのような編成は不可

※11 名のチーム又は 6 人以下のチーム編成を相談された場合は、全道大会出場の要件は満たさないので、各支部の裁量の中で判断願います。

全国小学生タグラグビー大会
北海道大会規則・競技規則補足

この「補足」は、全国小学生タグラグビー大会北海道大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にタグラグビーを楽しめる環境を作るため、以下についてご理解及び周知並びにご指導いただきたくお願い申し上げます。

1　試合進行に対する悪質な妨害について〔大会規則3（4）（5）、7（4）（5）〕

（1）　レフリー（タッチジャッジ、サブコントローラーも含む）及び競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

① 時間を空費する行為
② 故意の反則
③ 相手が反則をしているように見せかける行為
④ 暴力行為
⑤ 自チームまたは相手チームプレーヤーへの暴言
⑥ 競技役員、レフリー、サブコントローラー、タッチジャッジへの暴言
⑦ その他、レフリー、サブコントローラーが試合進行の妨げになると判断した行為。
⑧ レフリングのコールをすること。

→罰：プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

（2）　試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。サブコントローラー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー及び自チームを応戦する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

（3）　退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

① 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
② 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

2　タグラグビーのプレーについて

（1）　腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触または接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。（誤ってビブスや服を引っ張ってしまった場合は「接触」とみなす。）

① ボールを持って自由に動くこと。
② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること〔パス〕。
③ 空中にあるボールを捕球すること。
④ 地面にあるボールを拾うこと。
⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取ること。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

（2）　プレーヤーは次の行為をしてはならない。

① 2 本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーすること。
② ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取ること。
③ ボールを離したときの位置より前方にボールを投げること〔スローフォワード〕。
④ 保持している、または手に触ったボールを前方に落とすこと〔ノックオン〕。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。※故意に後方の地面にボールを「置く」プレーは、「接触を誘発するプレー」とみなす。
⑤ 相手をかわす以外の方法でタグを取ることを妨げること。
⑥ 相手のボールを奪うこと。
⑦ あらゆる種類のキック。
⑧ レフリングのコールをすること。

3　接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めなければならない。一切の接触行為及び接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為及び接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

① ボールを持っている時

- 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
  - 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
  - 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
  - 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
  - タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
  - タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
  - 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために半回転以上回転する。※北海道大会ローカルルール

② 防御するとき

- タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
  - タグを取りにいく際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
  - タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
  - 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
  - ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
  - ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
  - ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
  - 両手を広げて防御をする。
  - タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり，ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、タグを取らないのにボールを持ったプレーヤーに触れる、等。
  - ボールを持ったプレーヤーに、**自立できないほどに飛び込んでタグを取りに行くこと（いわゆるダイビングタグ）**。

4　タグ及びタグの返し方

（1）プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。

（2）タグを相手に返すときは、パスをしたのを確認してから必ず手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。（返す際に目線を合わせるとよい）

（3）タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。

（4）レフリーは、ボールを持ったプレーヤーがタグより先にパスしたと判断した場合、「パス先」または「ノー」とコールする。その場合、タッチジャッジはタグをカウントしない。

5　フリーパス時の注意

（1）フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。

（2）レフリー及びタッチジャッジは、防御側プレーヤーの後退及び静止を確認してから「プレー」のコールをかけること。

（3）防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。

6　選手の交代について〔競技規則1（3）〕

帯同コーチは、選手がわずかな時間のみコート内に立ち、ボールを持ってプレーする機会が与えられずに試合が終わってしまったということがないように配慮すること。大会規則3（1）①にある「出場」の要件は満たしているからといって、試合時間が経過している間にコートに立ってボールを操作するか、走るか、タグを取ることがなければ、「プレー」とは認められない。「後半開始時までに」とあるのは「後半の始めに必ずピッチに立っている」ことを示している。

入替の確認は「サブコントローラーを介してレフリーが認めた場合」としているが、帯同コーチにあっては名簿の番号順にビブスを着用させ、厳粛に交代を管理するよう求める。ビブスの着用が好ましくない場合は、ガムテープに名前を書いて上着の両肩に貼るなど、サブコントローラーが選手の交代を容易に把握できるように努めること。

支部予選にあっては、前後半のない試合の場合は、試合時間の半分を経過した時を目安にレフリーが試合を止めて選手交代をさせるよう配慮が求められる。

7　入替の運用〔大会規則5（1）〕

（1）帯同コーチは、試合開始前にコートハーフライン延長上にいるサブコントローラーにスターティングメンバー5人の番号と名前を告知すること。

（2）サブコントローラーは、「あらかじめ大会本部が用意した名簿又はプログラム」と選手番号、ゼッケンが一致していることを確認し、出場する5人の選手名にチェックをつける。

（3）交代したい場合、帯同コーチは余裕をもって、入れ替えたい選手をコートハーフライン延長上にいるサブコントローラーのところまで連れて行き、サブコントローラーに名前と番号を告げる。

（4）サブコントローラーは、名簿と選手番号、ゼッケンが一致していることを確認し、入替る選手名にチェックをつける。

（5）プレーが途切れた時（得点時、ハーフタイム、負傷等によってプレーが止まった時）にレフリーに交代を告げ、入れ替えを完了させるが、サブコントローラーの横を通って出入りすること。ただし、けが人についてはレフリーが認めた場合に限り近くのラインから出ることができる。

（6）前後半がない試合の場合、大会主催者はレフリーと協議し、試合時間の半分を経過した時点で試合を止め、選手の交代を指示するよう予め決めておくこと。プレーの途中で交代のための宣告がなされ試合が止まった場合は、選手の交代後、ボールを保持していなかった側のフリーパスで再開する。

タイムオフ

（例）計時係は、予め決められた時間になったときにブザー等を短く3回鳴らすことでレフリーに時間を伝える。タッチジャッジは旗を振ってレフリーに合図する。レフリーはプレーが止まったところで笛の合図とともに「タイムオフ。選手交代」と宣言し、胸の前で時計を止める動作（左図参照）をすることで時間を止める合図とする。（計時係は笛の合図で時計を止める。両コーチはこれまでコートに出ていないすべての選手を入れ替える）

選手交代が確認でき次第、「試合を再開します」と宣言し、笛の合図とともに右手を頭上に伸ばして再開を合図（右図参照）することで計時係は時計を進める。

計時係に停止と再開を指示

8　その他

【抽選について】

抽選による特定の監督又は選手への重圧を緩和する観点から、抽選を1人で行わせないように配慮すること。

例えば、チームからそれぞれ3人を選出し、それぞれ裏返したトランプのカードを引き、その合計数が大きい方を勝者とする。（誰がどのカードを引いたかわからないよう、同チーム内のカードを裏返したまま、それぞれ一度シャッフルしてから開くこと。）

（タグ推奨品）ＢＬＫタグラグビー用タグ

1セットからご注文可能
納期：2、3日

■ベルト1本・タグ2枚
■フリーサイズベルト(マジックテープタイプ) 110cm × 4cm
　タグ 37.5cm × 5cm (裏面マジックテープ部 5cm × 2cm)
■カスタムデザインも承っております。お問い合わせ下さい。
■日本ラグビーフットボール協会推奨用具

株式会社 WRS JAPAN
〒105-0001
東京都港区虎ノ門４－２－６
第二扇屋ビル 2F
TEL: 営業部 03-3436-5087
E メール: info@blksports.jp